

# ◆ いろいろな林（斜面の林と神社の林）



◀ <sup>どろい</sup>鳥居から南の道路に沿ってケヤキの巨木が列をなしているのは、昔の参道並木のなごりです。

▲ L 七百余所神社（村上）▼



境内はスタジイやアカガシの巨木におおわれています。



▲ M 八幡神社（吉橋）

常緑樹のアカガシが多く、スタジイ、シラカシを交える林と隣接して、スギ、ムクノキ、ケヤキ、イロハカエデ、コナラなどの樹木もあります。

## 神社林

古い神社の境内には昔から守られてきた林があります。それは自然のすがたを知る手がかりになります。市内にはあまり大きな神社林はありませんが、その中では熊野神社（桑納）、七百余所神社（村上）、菅原神社（下高野）、八幡神社（吉橋）、高津比咩神社（高津）などの林が注目されます。よい状態で保存したいものです。

## 斜面林

スタジイ、アカガシなどの常緑樹とイヌシデ、コナラなどの落葉樹の交じる林です。季節の変化がよくわかります。

▼ N 村上の斜面林



# ◆ 市街地の自然

庭の木々、草花、街路樹が立ちならぶ道沿いにも、わずかに自然の息吹が感じられます。

植えられた街路樹の植根には土があり、いろいろな草が生えています。コンクリートの割れ目などにも根を張っている草があります。植物があれば昆虫などの小動物もやってきます。花の蜜を求めるとウ・ガ類、葉を食べるその幼虫、それらを食べるアリ・ハチ・クモ、残りものを食べるダンゴムシ・ヤスデなどが見られ、都市の小さな生きものの世界を作っています。

モンシロチョウ  
〔シロチョウ科〕  
春から秋まで一年間で3~4回発生をくり返します。食草はキャバツなどです。



◀ モンキチョウ  
〔シロチョウ科〕  
普通はオスが黄色、メスが白色をしています。食草はマメ科のシロツメクサやコマツナギなどです。



◀ アゲハ  
〔アゲハチョウ科〕  
幼虫はミカン類の葉を食べ、小さい時はうす茶色で、大きくなると緑色に変わります。

（写真：前田録哉）



▲ アオマツムシ〔マツムシ科〕  
外来種で、幼虫はクヌギなどの葉を食べます。樹上で大きな声で「リーリー」と鳴いています。最近多くなりました。  
★詳しくは裏面に載っています。



▲ 道路沿いの植え込み  
街中の植え込みの間には雑草が茂っています。これも自然の仲間です。



▲ ウラシロチチコグサ  
〔キク科〕  
外来種で1980年代ぐらいから急に増えた草です。★詳しくは裏面に載っています。



◀ ヤマザクラ〔バラ科〕  
日あたりのよい斜面林に見られます。4月に新葉とともに花が咲きます。

▼ コブシ〔モクレン科〕  
日かげの斜面林にも見られます。3月下旬ごろから白い花をつけ始めます。最近街の中にもよく植えられています。

▼ ユリノキ〔モクレン科〕  
北アメリカから取り入れられた木で大きくなります。5月ごろ枝先にチューリップに似た花をつけます。葉の形からハンテンボクともよばれます。



◀ ユリノキの葉 ゆりのき通り